

第三回 家庭教育学級講座

～好奇心と探求心を育てる～

講師 探求学舎 宝槻 泰伸先生

平成29年12月6日

世田谷区立玉川中学校

～驚きと感動の種をまく～

子どもたちには、どのような人生を歩んでほしいと願っていますか？

私たち探究学舎は

“好きなことでチャレンジする人生を貫いてほしい”

そう願っています。

好きなことでチャレンジする人生を歩むためには
自分は何に興味があり、何を指すのかを知ることから始まります。

自分の人生をかけて挑戦したいテーマと出会う。

探究学舎はそのために
世の中に埋もれている「自然の神秘」と「人類の英知」にまつわる
驚きと感動のストーリーを掘り起こします。

そして、創造的かつ協働的な学習空間の中で
そのストーリーを“体験”として子どもたちに届けます。

人類は「自然の神秘」に驚き、そこにヒントを見出して
「人類の英知」を積み重ねてきました。
またその英知を継承することで、世界は発展してきました。

私たちはこの継承を「知のバトンリレー」と呼びます。

人生をかけて取り組みたいテーマに出会い
壮大な「知のバトンリレー」に参加する。
世界に新たな1ページが刻まれる。

探究学舎は、その挑戦に、子どもたちと共に踏み出します。

好きなことでチャレンジしたい子どもたち
そしてそれをサポートしたい大人たちにとって
最高峰の教育パートナーであること。

それが探究学舎の目指す姿です。

「自分の資質・個性を耕して、好きなことでチャレンジをする。どうすればそんな人生を生きることができるのか？」

こうした問いをその胸に秘めた保護者がいる。これまでの価値観に引きずられることなく、新しい価値観で子を育てようとする保護者。これまでは社会のものさしに「適合」することが重要視された。しかし彼らは、そうした適合に代わって、「創造」という価値観を掲げる。それは、社会のものさしではなく、自分のものさしを作り上げ、それを軸にして生きようとする価値観だ。適合から創造へ。静かに進行するシフトを背景に、私たち探究学舎は、創造の教育を形にするというミッションを担う。

ではどうすれば創造の教育を形にできるのか？ 私たちが掲げるキーワードは「興味開発」だ。これまでの適合の教育は能力開発をその中心に置いた。「できることを増やす」を合言葉に、読み書きそろばんに始まり様々な能力を開発することに注力した。しかし創造的は能力ではない。人生をかけてやりたいことを見定めることにある。そう、創造的はビジョンなのである。能力はビジョンを実現する為に必要な手段であって、人生の目的にはなり得ない。人生の目的、すなわちビジョンを創造することこそが、これからの教育の役割なのだ。だからこそ、出発点としての興味関心づくりが何よりも大切になる。好きなこと、知りたいことがなければ、大きなビジョンも描けない。興味を開発すること。それはビジョンを創造するための第一歩となる。

興味を開発する上で大切なことはなんだろう？ 私たちは「驚きと感動」だと考える。「わあ！すごい！」という驚きと感動の体験こそが、「もっと知りたい！」「やってみたい！」という探究心に火をつけ、それがやがてはビジョンを作り上げる力強いエネルギーになるからだ。

だからこそ私たちは目指す。驚きと感動の種をまく、達人になると。

深遠なる宇宙の姿、人体に秘められた仕掛け、数をめぐる人類の長い冒険、そして、科学技術発展の物語。この世界には驚き感動に値するストーリーがたくさん眠っている。それを一つ一つ掘り起こし、驚きと感動の種にして、子どもという畑にまいていく。これこそが私たち探究学舎が担う、具体的な実践である。自然の神秘と人類の英知。私たちが扱う教材は、そんな人類の宝なのだ。

世の中には子どもたちに「驚きと感動」を届ける企業がいくつかある。任天堂やディズニーはその筆頭だろう。彼らが提供するプロダクトは、子どもたちに驚きと感動を与え、心を驚掴みにして離さない。しかし、彼らが提供するものはフィクションの物語だ。

エンターテインメントは確かに素晴らしい。しかし、それに匹敵し、それ以上とも言えるプロダクトが「本物のエデュテインメント」なのである。事実や史実のなかには、エンターテインメントが創り上げる創造の世界を超えて、人々の心に深く、強く訴えるドラマが潜んでいる。それは、宇宙のビッグバンから始まり、代々受け継がれてきた「生命のバトン」のリレー、そして、決して途絶えることのない人類の挑戦がもたらしてきた「知のバトン」のリレーである。普段触れることのできない、入口のドアノブが隠れてしまっている世界に、子どもたちを連れ出そう。自然の神秘と人類の英知に、子どもたちを触れさせよう。そこに驚きと感動があるとき、エデュテインメントはエンターテインメントを超える。

驚きと感動の種をまき、人生のビジョンを描きたい。

私たちはそんな願いを心に秘めた人々のために、未だ誰もなし得ていない、エデュテインメントの分野を形にするという革新的な仕事をする。

探究学舎代表 宝槻 泰伸